

船井情報科学財団 第9回中間報告書

田主 陽

2020年12月

Ph. D. candidate, Department of Chemistry, Massachusetts Institute of Technology

本来は2020年の12月はハワイで開催の学会に参加することになっており、観光の写真なども交えながら大自然の中で明るいトーンの報告書を書く予定でしたので、真冬・大雪のボストンからの報告となってしまいとても残念です。

ただ、研究に関しては明るい兆しが見えてきています。[前回の報告書](#)の時点では Reopening の Phase 1 でしたが、その後 Phase 2, 3 と進み、現在は私のラボでは大きな制限はなく実験が可能となりました（研究室の広さに対する人数の制限があるのですが、元々スペースに対して人数が少ない研究室のため）。他のラボでは人数制限があるところも多いため共用の装置が空いていたり、対面のセミナーやミーティングがなくなって移動時間が減ったりと、効率的に実験できています。この半年だけでもいくつか面白い物質・反応を見つけられたため、卒業までに研究として形にしたいところです。

また、先日久しぶりに[論文](#)が出版されました。以前在籍していたポスドクと共同の第一著者となっています。2年前に書いた論文の反応性をより一般的に拡張したという成果のため、新規性の点で査読が難航するかと思っていたのですが、意外にも今までの論文で最もスムーズに進み、twitter などを見ても同業者からの反応も悪くありませんでした。マイナーな分野ではありつつも、他の研究者が試していないことを研究し続けていることが評価されているのかなと感じています。

通常この時期は日本に一時帰国していたのですが、今年はボストンで静かな年末年始を過ごしています。また先日博士論文審査会とのミーティングを行って2021年の夏の卒業が決定したため、次回の報告書は博士取得報告書となる予定です。いつも充実して不安の少ない留学生活を送れるのも、財団からの経済的・精神的な支援のおかげだと日々感じています。残り約半年の博士課程ですが、最後まで頑張ってゆきたいと思います。



指導教官からのクリスマスプレゼントで、研究室メンバーの家を車で回って届けていました。サンタクロースって実在するんですね。